

## 第2回 飼料流通の合理化に関する検討会議事概要

1. 日 時 令和2年7月3日（金）10:00～12:00

2. 開催方法 Web開催

3. 議事概要

(1) 飼料流通における課題とその対応方向（案）

（説明者 農林水産省生産局畜産部飼料課）

主な意見は以下のとおり。

### ① リードタイムの確保について

- リードタイムの確保は重要なテーマだが、他のテーマができて初めて成り立つのではないか。最終的には農家への周知が重要だが、輸送コストを削減できる、安定的に購入できると農家にメリットを示す必要がある。
- 顧客に対して、今まではリードタイムの確保はお願いベースだったが、今後は物流の情勢を踏まえて、より一歩踏み出した形でリードタイムの確保の効果を案内していく。顧客である農家等に対して弱い立場であるため、農水省の主導で推進していただきたいところ。

### ② 正確な需要把握について

- 飼料タンクの在庫情報を将来的には受発注や伝票発行、ひいては畜産クラウドに繋げていきたい。センサーを小ロットの飼料銘柄に取り付けることで、工場の生産性を向上させることにつながると考えている。
- 在庫把握システムは、飼料の銘柄が多くなると複雑化するので効果的に実施するためには銘柄の集約化が必要ではないか。

### ③ 配送時間の削減について

- QRコードは、飼料の切り替え時なども配送の効率化が可能であるが、高齢のトラックドライバーが使いこなせるかが疑問。
- 誤配送防止のためにQRコードの活用は検討しても良いのではないか。
- 粉じんによる汚れでQRコードが読み取れないことがあった。また、バルク車の荷室を開けるためのレバーにも同じQRコードがついていないと配送時に間違える。QRコードの利用については失敗事例の蓄積とその共有も大事。
- 飼料工場では24時間体制でのバラ積み出荷が可能のため、GPSは運用を考える必要がある。工場のバラ積み出荷タンクの状態をドライバーが把握できるようにするのも良い考えかもしれない。

### ④ ドライバーの付帯作業の軽減について

- 袋物の飼料配送と手荷役について、パレチゼーション（パレットを活用し

た物流)について会社全体で取り組んでいる。パレット交換方式で、事前に飼料工場にパレットを持ち込み、積み込みした物と空パレットを交換するという方式をとっている。

- 飼料タンクの蓋の開閉装置は一部農場については設置されているが、堅くて開かない、また、雨の日はバルク車のブームにカップをかけなくてはならず、結局高所作業が必要などといった問題がある。パレットは手積み手下ろしが削減される一方、回収したパレットを農場から工場へ持って行く際に消毒が必要となり、手間もかかる。
- 飼料タンク上でのTB(トランスバッグ)解袋など高所作業はなくしていくべき。
- ヨーロッパはペレット主体であり、飼料タンク上でのTB解袋はない。その配送事例などを参考として検討を進めてはどうか。
- SP(ストックポイント)までの輸送についてはパレットを活用し、SPからは価格面でメリットがあることを示して農家に取りに来ていただくという形もあるのではないか。

#### ⑤ 長距離輸送について

- 飼料工場から卸業者の倉庫に飼料を下ろして、そこから小口配送しているが、これによる運賃上昇分は、卸業者負担となっている。
- 大型のSPを整備している地区で、紙袋の配合飼料と乾牧草をSPに置いて、農家が自ら取りに来る取組がある。紙袋飼料の配送を希望する農家へは、曜日を決めて効率的な配送を実施している。
- 工場跡地をSPにした取組をしており、他メーカーとの連携も考えている。他社との衛生基準に違いがあることが、SPの共同利用における課題だと考える。

#### (2) 作業部会の設置について

委員の賛同が得られ、各作業部会について、事務局の案をもとに進めることとなった。